

アメリカ・シカゴで開催された国際工作見本市「IMTS 2016」に出展。好調の産機事業(自動車分野)に弾みをつけていきます

アメリカ・シカゴで2年に1度開催される国際工作見本市「IMTS (International Manufacturing Technology Show)」は、常に2000社以上が出展し、全世界から10万人を超える来場者を見込む展示会です。今号では当社 日東精工も出展したその模様をレポートします。



本年9月12日(月)から17日(土)まで開催された「IMTS2016」に当社日東精工も出展いたしました。日東精工ではアメリカでの自動車産業の好景気を背景に、産機事業分野(自動組立機械)が好調に推移。今年の6月6日には米国第2の拠点として「アメリカテネシー支店」を開設



しています。この勢いをもって、アメリカでの更なる新規開拓、販路拡大、そして既存ユーザー様へのサービス拡充を図ることを目的に「IMTS2016」へ出展したものです。

長尺品400mmストロークを有するねじ締めロボットをはじめ、下締めや横締めが可能な単軸ねじ締め機、ピッチ切替機能を搭載した多軸ねじ締め機など、アメリカでの需要を見こした自動ねじ締め機をメイン展示。高精度NXドライバ「SD600T」も参考出展しました。ねじ締め機のデモ機は今回の展示会に合わせて製作したもので、アメリカミシガン支店の現地スタッフが希望する仕様を実現。アメリカスタイルのねじ締め機をPRしました。

その他、制御システム事業部からはマイクロバブル洗浄装置「バブ・リモ」、ファスナー事業部からは樹脂用ゆるみ防止セルフタッピンねじ「ギザタイト」や炭素繊維強化プラスチック用ねじ「CFタイト」なども出展しました。当社の強みのひとつはファスナー、産機、制御システムの3事業部が連携し

て締結分野のトータルソリューションを提供できることですが、アメリカで3事業が揃って出展するのは今回が初めてのケースとなりました。

今回、当社ブースを訪れた方は日系企業が20%、非日系企業80%でした。当社アメリカ支店のこれまでのお客様の大部分が日系企業ですので、「非日系企業からの引合いを新規開拓に結びつける」という点でも目的に見合う結果が得られました。

日本の展示会などに比べてスケールも大きく、服装もラフ。場内にはビールも販売されていました。見学者(商談者)がコーヒーを片手にということも珍しくないのですが、ビジネスへのアンテナの張り方は鋭く、判断・決断は速く、通常の日本での展示会以上のスピードで引合い、見積り依頼が入っています。

今回、日本からは事業部に加え、開発研究所と経営企画室からも参加。アメリカミシガン支店だけでなくアメリカテネシー支店からも応援がかけつけ、国内⇄アメリカ支店(ミシガン・テネシー)とのコミュニケーションを図る展示会参加となりました。

子どもたちの未来を応援。インドネシアで「グローバルCSR活動」

折り紙やけん玉を楽しんでいるのは インドネシア「タンゲラン ジャタケ第4小学校」の子どもたちです。現地法人 日東アラムインドネシア (NAI社)へ赴任経験がある当社 日東精工 経営企画室グローバル戦略課課長 上原規が8月5日、同小学校を訪れ、日本文化を紹介する授業を受け持ちました。「長年、当社のインドネシアでの事業を支えていただいた地域への感謝を形にし、友好関係をさらに深めたい」というグローバルCSRの理念を実現化させたもの。



校長先生や他のクラスの先生も飛び入り参加するなど、終始笑いの絶えない楽しい授業となりました。

また、日東精工本社(綾部)では毎年、インドネシア人の研修生を受け入れており、将来のNAI社幹部候補生として育成しています。下の写真は日本での研修経験後、現地で活躍している彼らたちの同窓会(じつは日東精工のキャラクター「ねじとくん」もこの研修生が産みの親です)。日東精工では今後も国内外、若い世代の育成を行ってまいります。



われら NITTO'sグループ

和光株式会社

技術提案ができる商社として、日東精工グループを支えます

和光株式会社は日東精工グループの「商社」です。部品メーカーから製品を仕入れ、それを販売。なかにはアッセンブリ(組立、取付けアレンジ)して納品するものもあります。取扱い品目は、自動車分野から産業機器、医療機器、住宅、家電、楽器まで多岐にわたり、最近の注目点ではハウスメーカー向けバルコニー用タイルが伸張しています。

もちろん日東精工のファスナー、産機、制御システムの3事業部の製品が主体になっているのですが、切削プレス部品から住宅関連部品まで多岐にわたる製品群が最大の特長です。親会社の日東精工だけでなく、国内に約300社、海外に25社と幅広い提携先があり、良好な関係を築いていることが、和光の強みになっています。そして、この幅広い提携先や優良顧客が日東精工グループ全体へのシナジー効果(波及、相乗効果)を生み出していますし、今後も大きく期待される点でもあるのです。

昭和28年和光鋸螺製作所を創業、62年に現在の群馬県邑楽郡大泉町に本社移転し、63年1月社名を「和光株式会社」に変更。平成12年に日東精工の連結対象子会社となりました。日東精工グループ傘下となったことで、部品調達という商社機能だけでなく、メーカ



扱い品目は多種多様。写真は前号でも紹介したLED電球スピーカー「MUELIGHT」。

<http://www.wacohkk.co.jp/products/muelight.html>

一の技術力を背景に、より踏み込んだ「技術提案」ができるようにもなり、これも他社商社と差別化ができる和光の力になっています。

今年2016年春に新しく就任した仲俊幸代表取締役社長。長きにわたり、日東精工の営業として和光を担当していた縁があり、より風通しの良い組織づくりを構築したいと願います。

「商社とメーカーの営業(販売)のスタイルは根本的に違います。前者は幅広い視点、後者は自社製品に対する強い思い入れとゆるぎない自信……そのどちらも経験すればより大きな力になるはず」と仲社長。日東精工との人的交流や新規事業への協業なども進め、更に大きな成長を目指します。

10/12日から14日まで大阪の南港ATCホールで開催の展示会「LIVING & DESIGN 2016」に日東精工と和光が共同出展しました。



代表取締役社長 仲俊幸。1986年、経験者採用で日東精工に入社、東京支店へ配属される。中国の現地法人「NPS」の日本人責任者(副社長)や名古屋支店長を歴任後、2015年4月から和光株式会社常務取締役、2016年2月から現職。趣味はウォーキング。好きな言葉は「ケセラセラ」(なるようになると楽観的に考える)。最善を尽くし、新しい困難な仕事、プレッシャーがかかる仕事もありがたいと感謝し良き経験にしたいと語る。

8月29日ホームページをリニューアルしました

<http://www.wacohkk.co.jp>

事業領域の拡大と 企業価値向上を目指し 協栄製作所を子会社化



この度、当社 日東精工は、奈良県五條市にある(株)協栄製作所（代表取締役社長 川名輝夫）の株式を取得し、子会社化しました。

協栄製作所は締結関連部品の製造販売を手がけ、住宅、建築土木、造船など幅広い業界で優良企業と取引実績をもち、安定した顧客基盤を築いています。日東精工が精密ねじを得意とするのに対し、太モノを扱うなど、領域の異なる製造品目が主力であることから、今後、互いの販路活用によるターゲット市場の拡大、生産能力の相互補完による幅広い供給体制の構築などが可能となります。太モノなどへのオーダーに対してスムーズに対応できなかったケースも解消され、とくに日東精工グループの注力分野である、自動車分野での伸張が期待できます。

機関投資家、アナリストを対象に 第2四半期決算説明会を 開催しました

8月25日(木)東京日本橋にある(株)日本投資環境研究所において「2016年12月期 第2四半期決算説明会」を開催しました。



メディアやアナリスト、機関投資家の方々を対象に、上期は産機事業を中心に自動車業界向け需要が牽引し、増収増益であった決算内容をご報告。アメリカでの拡販を目的にミシガンに次いで新たにアメリカテネシー支店を開設したこと、M&Aで新たな製造拠点を確保したこと、自動車業界へのセルフタッピング化の進捗状況や現在研究開発中の期待の新製品などをご紹介、解説いたしました。

ねじ締め機に新ラインアップ誕生 NXドライバ「NX008T2」

日東精工 産機事業部では9月26日、すでに業界から高評価をいただいているねじ締めドライバNXシリーズに超低トルク帯を加えた「NX008T2」を新発売しました。ねじは強く締めればよいというものではありません。精密ねじ、極小ねじに対しては締付トルクも精細さが要求されます。

付加価値の高い優れたねじを開発しても、それをしっかり締めるドライバがなければ、威力が半減してしまいます。当社では、他社では真似のできないファスナー事業と産機事業の連携で、何倍もの相乗効果が得られます。



10月5日から7日までインテックス大阪で開催された「関西機械要素技術展」に出展しました

公立図書館での「ねじ展示」で ねじのおもしろさ、大切さをアピール!

平成28年9月9日から平成29年1月11日までの4ヶ月間、神奈川県立川崎図書館のミニ展示会コーナーで、さまざまなねじが展示されることとなり、当社も出展協力をしています。



「産業の塩 生活を支える“ねじ”」というテーマで、当社の極小ねじや精密ねじを展示したところ、通常、この展示コーナーに足を向けられない方が訪れるようになったり、見学者が増えたりしたそうです。休日には小学生が熱心に見て写真撮影もしていました。



お近くの方はぜひお立ち寄りください。

※今後予定されている講演会に「極小ねじ (0.6mm)」のサンプルを提供しています。

うっかり変換ミスが命取り
人の名前は絶対に間違えない！

先日「24時間テレビ」で全盲の先生が紹介されていました。熱血教師として慕われ、まさにこれからというとき、両目の視力を失います。家族や周囲のサポートもあり、自暴自棄から立ち直り、努力を重ね、13年かけて再び教壇に立つという感動秘話です。

その最初の授業のときに生徒の机の下に事前に名前の点字を貼っておき、それを触りながら、一人ひとりの名前を呼びかける。名前を呼ばれた生徒が驚き、感激するシーンがとても印象的でした。フルネームを正しく呼ばれて気を悪くする人はいません。名前を覚えることがいかに大事かを再認識させてくれました。また石原慎太郎の書籍の影響もあり「田中角栄」ブームですが、角栄さん人も

の名前を覚えるのが得意でした。うっかり名前が出てこない場合は「君の名前はなんだっただ？」「吉田です」「いや、それはわかっているよ、



当社の人財教育を一般向けにまとめた書籍『人生の「ねじ」を巻く77の教え』（ポプラ社）P71でも「名前を一度で覚えるコツ～人に好かれる必須条件」を紹介しています。こちらもご参照ください。

下の名前を聞いている」という調子で人心を掌握したといえます。名前は大事なのですが、Eメールなどでのやり取りで、間違ったまま気がつかないというケースも増えているようです。たとえば私の場合、蒲田をローマ字入力すると最初の変換が鎌田なので、宛名にうっかり？鎌田のままということも多々あります。それでもさすがに苗字を繰り返し間違えるということは少ないでしょうが、同じ音の似た文字、祐、裕、佑など、最初にミス入力したものがそのままということも十分あり得ることです。間違えた相手が指摘してくれることはまずありません。ついうっかりが、命取りになることもあるとぜひ心得ましょう。

（経営コンサルタント・蒲田春樹）



蚕都をイメージした和菓子

ねじのある街・あやべの魅力

綾部市の観光キャッチフレーズのひとつが「和でつむぐ綾のまち」。古い町家がたくさん残っていて、和菓子屋も多いです。

小さいながらも綾部藩の御膝もとであり、大本教発祥の地でもあります。（また「綾鷹」ブランドでおなじみ宇治茶の老舗「上林春松」のルーツが綾部であることは以前この欄で既にご紹介しましたが）、そもそも朝霧に包まれる綾部はお茶の産地としても最適であることなどから、当地にはお茶を喫する風土があり、今もなお、美味なお菓子

が豊富で、とくに大本通り周辺のわずかな距離に5店舗が軒を並べているのです。

地元丹波産の小豆を使ったものは種類が豊富。秋には丹波栗を使ったものもおすすですが、絹糸をかたどった「綾乃糸（写真）」や蘭玉をイメージした「蘭もなか」など、ガゼンゼ創業、養蚕の地、綾部にちなんだお菓子も人気です。

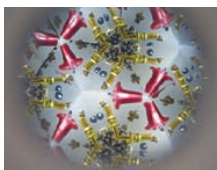


よしみ菓子舗の「綾乃糸」。

ねじ大好き！
コラム

ねじが生み出す小宇宙
心をいやす「ねじ万華鏡」発売中

ニュースレター8月号でもご紹介しましたが、当社ファスナー（ねじ）事業60周年と、万華鏡200年を記念した「ねじ万華鏡」（手作りキット）がいよいよ販売されます。ねじは、工業製品としても美しいものですが、3つの鏡に様々なねじを反射させて回転させながら覗いてみると、組み合わせの妙、出会ったことのない美しさ感激します。まさに一期一会のねじの小宇宙です。「万華鏡」にはリラックスや癒し効果があり、発達障害児の学びプログラムにも取り入れられるそう。ふだんの使い方はまったく違いますが、当社のねじが、皆さまの心の平穏につながればと願います。



「ねじ万華鏡」は「京都万華鏡ミュージアム」で販売される手作りキットをねじバージョンにしたものです。キットのなかにはねじの大切さを紹介する冊子も入っています。「京都万華鏡ミュージアム」で販売。今後取扱い先を増やす予定です。

小学低学年～大人用540円。